

新潟市まちなか再生本部会議
報 告 書

平成24年3月14日

新潟市まちなか再生本部会議

目 次

第1章	新潟市まちなか再生本部の設置について	P5
1.	これまでの新潟市まちなか再生本部の経過	P6
2.	23年度の設置の目的と概要	P7
3.	23年度の新潟市まちなか再生本部組織	P8
4.	検討対象範囲	P10
5.	各専門部会の検討項目	P11
6.	23年度の本部会議及び部会の開催状況	P12
第2章	まちなか再生への基本方針	P18
1.	はじめに	P19
2.	都心軸の位置づけ、必要性	P19
3.	都心軸のまちづくりの方向性、コンセプト	P26
4.	中長期的な課題への提案	P28
第3章	まちなか再生に向けた取組み提案	P33
1.	新潟ブランドイメージの構築・戦略展開	P34
2.	個性的で賑わいのある商業・都心空間	P36
3.	都心軸を結ぶ分かりやすく利用しやすい「まちなか公共交通」の構築	P40
4.	湊町文化・温故知新・行ってみたいまち新潟	P45
5.	新潟市の玄関口にふさわしい風格と機能を兼ね備えた街並みの創出	P49
6.	訪れる人・住む人に安心・安全なまちなか整備とまちなか居住推進	P51

第4章 まちなか再生の実現に向けてすべきこと（行動提案） P55

1. まちなか再生への取り組みと新潟の魅力を積極発信・・・・・・・・ P56
2. 地区全体の魅力を高める商店街づくり・・・・・・・・ P56
3. 大和デパート跡地再開発の早期実現・・・・・・・・ P57
4. BRTの早期整備と市民・事業者・商業者の機運醸成・・・・・・・・ P57
5. BRTの効果を全市民が感じられる取り組みを・・・・・・・・ P58
6. 花街の文化を継承し活用する取り組みに総力を結集・・・・・・・・ P58
7. 萬代橋というかけがえのない財産を活かす・・・・・・・・ P59
8. やすらぎ堤をイベントや賑わい空間に大解放・・・・・・・・ P59
9. 万代広場と東大通から拠点性と魅力を発信！・・・・・・・・ P59
10. 関係者によるエリアマネジメントの積極推進・・・・・・・・ P60

第5章 新潟市まちなか再生本部報告書 資料編 P61

1. まちなか再生若手ワーキンググループによる提言・・・・・・・・ P62
2. 市民ワークショップにおける市民意見・・・・・・・・ P65
3. 市民提案書で寄せられた意見・・・・・・・・ P84
4. 中心市街地に関するデータ集・・・・・・・・ P88
5. 緊急・短期対策の進捗状況・・・・・・・・ P96
6. まちの活性化・都市デザイン競技 概要・・・・・・・・ P104

まちなか再生にむけて

～活力ある交流都市“新潟”～

「新潟市まちなか再生本部」は大和新潟店の撤退発表を受けて平成21年11月に設置し、委員はもとより、日本を代表する各分野のアドバイザー、そして多くの市民の皆様から、まちなかのあるべき方向について幅広くご議論をいただきました。

再生本部を設けた当初は、古町・榎谷小路を中心とする中心市街地で有名店や老舗の閉店が相次ぎ、大変に苦しい状況、暗い雰囲気の中で商店街に対する厳しい意見も相次ぎました。

しかし、危機感を共有する中で、次第に新しい動きやこれまでにない考え方も出てきました。郊外型大型店の進出で大苦戦している商店街が多い中、全国では善戦している中心市街地もあります。それらの事例を分析し、世界的な建築家・隈健吾氏ら専門家に話を聞くうちに大きな方向が浮かび上がってきました。それは、「賑わいを甦らせることは商業の新たな核をつくるだけではできない」「地域の歴史や自然・地形、文化を大切にすまちなかづくりが重要で、中でも萬代橋を都心軸の要にすべき」ということだったと思います。

この流れを受け継ぎながら昨年3月に再開した会議では、中長期的な課題をテーマに「新潟の都心軸の目指すべき姿」を明確にし、6つの取り組み提案と10項目の行動提案から成るまちなか再生へ確かな指針をいただけたと感謝しています。

従来の新潟型まちなかづくりではあまり重視されてこなかった視点が、多くの関係者・市民・地域のコンセンサスになっていったことは大きな収穫でした。私も「新潟のまちなかづくりの考えが深まり、さらに進化していける」という手応えのようなものを感じています。

もとよりまちなかの活性化は商店街の努力が必要です。加えて関係者がそれぞれの役割を果たし、まちなかが市民に誇りと愛着を感じさせる個性と魅力ある空間に変わっていけば、様々な交流活動を通じて新たな投資を呼び込み将来の担い手を育てる大きな活力となります。

幸い本市には(1)連節バスを専用走行路に運行させるBRTの導入(2)それを契機に市全域のバス交通網を持続可能にする路線大幅見直し(3)新潟駅万代口の整備前倒し—など、新潟のまちが魅力的に変わるプロジェクトがスタンバイしています。

新潟駅から広がる美しい街並みをBRTが走りぬけ、その先の古町には奥深い歴史や文化に支えられた活気ある街の営みと若い人々の笑い声があふれる・・・そんな夢が広がる未来に向けて、市民の皆さまのご意見を聞きながら、まちなかづくりに全力で取り組んでいきます。

最後に、まちなか再生本部の活動にあたり、会議にご参加いただき、貴重なご意見をいただいた委員および関係者の皆様、またご意見をお寄せくださった多くの市民の皆様に、心から感謝申し上げます。

平成24年3月

新潟市まちなか再生本部 本部長 篠田 昭

まちなか再生 ～ 都心軸・自然軸・時間軸の再形成から ～

東日本大震災の発生直後に、この「まちなか再生本部」は始動しました。自然の大きな力を実感した私たちの前に、まちなか再生という都市のかかえる課題が突きつけられているのだと認識しました。明治時代以降の日本の近代都市は、できるだけ地域の自然や歴史から遊離して、経済活動が効率的に行いやすいように均質化され、個性と誇りを失ってきました。そして、50年、100年先の姿を描けないまま今に至っているように思います。今後の都市のあり方として、地域の自然と歴史を大切にして、その伝統の上に新たな展開が期待される時代になったと考えます。

さて本会議では、新潟駅から古町に至る都心軸に、長い歴史という新潟にとって一番の時間とアイデンティティが蓄積されている重要性が再認識されました。そして、新潟のまちなかに信濃川という日本一の大河が流れており、いわば都心軸に信濃川という自然軸が直交しているのです。さらにそこには、80歳を超えた時間軸をもつ萬代橋が存在しています。言い換えると、都心軸・自然軸・時間軸という三つの骨格が新潟のまちなかに形成されているのです。その骨格を100年先の未来まで見越して、景観や賑わいによりどう磨きあげることが議論の主題になりました。さらには、都心軸を白山駅まで延伸し、新たな交通システムによる分かりやすく利用しやすい公共交通整備を提案しました。

加えて、新潟の都市ブランドとしての湊町文化と花街（かがい）を活かしたまちあるき観光、新潟駅からの風格ある街並み・景観、安全安心なまちなか居住の必要性まで具体の提案が広がっています。それら提案のいくつかは、成熟した社会における「生活の質」の向上と「文化の質」の個性化を同時に求める取組みであり、そもそもの湊町と在郷の町や村、集落などが支えてきたかつての大きな経済圏を取戻す試みであるとも考えています。

これまで、まちなか再生本部会議委員およびオブザーバー・関係者の皆様には、真摯なご議論・ご意見をいただき感謝しております。まちなか再生本部会議は、今回でその役目を終えることとなりますが、これからは委員および関係者各々が一市民・事業者の立場として、本格的な「まちなか再生」の取組みに参加・参画していただくこととなります。

このまちなか再生の取組みが、100年先の未来を創る旗振り役として、新潟市全体を先導することを期待してやみません。

平成24年3月
新潟市まちなか再生本部会議 座長 大熊 孝